

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370067

研究課題名(和文) 戦時下・宗教系大学における宗教研究と宗教者養成に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on religious studies and religious education at religious universities in World War II

研究代表者

星野 英紀 (HOSHINO, Eiki)

大正大学・文学部・名誉教授

研究者番号：00054669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2014年4月から2017年3月までの3年間で行われた。本研究では、アジア太平洋戦争時における大学と宗教の動員/参加実態について研究を行い、得られた成果をその都度、学術論文および学会発表等で公表してきた。その蓄積をもとに、最終成果として、江島尚俊・三浦周・松野智章編『シリーズ大学と宗教II 戦時日本の大学と宗教』(法蔵館、2017年3月)として刊行した。

研究成果の概要(英文)：We conducted research activities from April 2014 to March 2017. We studied the mobilization and participation of universities and religions in World War II. The result was published as "Universities and Religions in World War II", hozokan, March 2017.

研究分野：宗教学

キーワード：宗教系大学 戦争 宗教 天皇 大学 学問 教育 動員

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、大正大学総合仏教研究所：「大学と宗教」研究会（平成23-25年度）における調査および研究成果を基盤として構想されている。そこでは、明治期から昭和初期における宗教系大学の教育・研究動向の実態解明を行った。その成果は、江島尚俊・三浦周ほか編『近代日本の大学と宗教』（2014）として刊行されたが、戦時下（特に満州事変以降から昭和20年）については意図的に研究対象としなかった。なぜならば、戦時下は国家総力戦体制の中に大学が組み込まれていく極めて特殊な状況であり、かつ戦後の新学制へと続く重要な時期であることから、1つの大きな別テーマとして捉えるべきと考えたからである。

### 2. 研究の目的

本研究では、戦時下の宗教系大学（仏教系・キリスト教系）における教育・研究、および公的な発言・行事に焦点を当てることによって、以下の3点を明らかにすることを目的とした。

宗教研究の実態

宗教者養成の内実

戦争に対する大学としての姿勢

上記の解明を通して、近年、注目を集めている戦争と大学・学問・教育の関係を明らかにするとともに、宗教学と教育史学を架橋する新たな研究領域の開拓を企図していた。

### 3. 研究の方法

本研究では、研究代表者1名、共同研究者4名の合計5名で構成される研究体制のもと、

宗教系大学の戦時対応

キリスト教系大学のカリキュラムと大学機構の調査

仏教系大学のカリキュラムと大学機構の調査

宗教系大学の戦時組織に関する調査

上記テーマのもと各自が研究をすすめる。平成26・27年度は主に各大学での資料調査を行い、そこで得られた資料をもとに28年度では成果報告をまとめた。

### 4. 研究成果

本研究では、2014年4月から2017年3月までの3年間で行われた。本研究では、アジア太平洋戦争時における大学と宗教の動員/参加実態について研究を行い、得られた成果をその都度、学術論文および学会発表等で公表してきた。その蓄積をもとに、最終成果として、江島尚俊・三浦周・松野智章編『シリーズ大学と宗教 II 戦時日本の大学と宗教』（法蔵館、2017年3月）として刊行した。

なお、本研究成果の意義としては、以下の2点を想定している。

宗教学において、新しい学問史の方法、および宗教者養成という新たな研究領域を提供することが出来た。林淳が論じているよ

うに、宗教学とは旧学制下の宗教系大学において極めて重視された学問であった（「宗教系大学と宗教学」2008）。それにも関わらず、各大学における制度化の経緯はほとんど分かっていなかった。同様に、仏教学、聖書学などを含めた広い意味での宗教研究が、官立・私立の大学において如何なる歴史的・制度的推移を経たのかという点も未解明の部分が多く、特に戦時下に関しては全く着手されていなかった。「大学という視点から宗教研究の制度的歴史化を試みる」、従来の宗教学にとって新しい学問史の方法を本研究では提供することでできたと位置づけている。

教育史学に対しては、宗教系大学の横断的実証研究という方法、国民教導のための専門職養成機関という新しい視点を提供できたと考えている。官立および有名私立の大学に比べ宗教系大学に関する研究は極めて少ない。そのような中、天野郁夫による近著『高等教育の時代』（2013）は、旧学制下の宗教系大学の動向を横断的に概略している貴重な著作といえる。そこでは個別大学史の枠組みを抜け出し、宗教別に当時の動向を比較している点が画期的である。しかし、天野の記述は各大学史をもとにしており具体性に欠ける点が少なくない。本研究では、各大学内に保管されている一次資料を調査対象とすることで、教育・研究内容の実証的な解明、およびそれを基にした比較研究を試みた。また、宗教系大学を国民教導のための専門職養成機関としてみなすことで、戦時下の宗教系大学がどのようなカリキュラムで宗教者養成を行い、国家から期待される役割を果たそうとしたのか、さらには、戦争に対して各宗教系大学がどのような発言・公式行事を行っていたのか、という点に焦点をあて、明らかにすることができた。宗教系大学を横断的に捉え、かつ国民教導のための専門職養成機関としてみなすことで、教育史学（大学史、高等教育史）に対しても重要な研究成果を提供できたと考えている。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

1. 江島尚俊「明治期における「倫理書籍」の出版動向と「日本倫理」論の類型」『田園調布学園大学紀要』第11号、2017、pp.3-48、査読有。
2. 江島尚俊「現代日本の宗教系大学と「宗教的資格」に関する調査報告」『佛教文化研究』第58号、2017、pp.57-69、査読有。
3. 江島尚俊「どこが宗教を所管するのか 宗教学校所轄問題から宗教行政所管論への展開」『宗教研究』第90巻第3号、2016、pp.1-26、査読有。
4. 安中尚史「近代における日蓮宗僧侶の海外留学」『印度學佛教學研究』第65巻第2号、

- 2017, pp.179-186、査読無。
5. 安中尚史「近代における日蓮教団の子弟教育」『日本佛教学會年報』第 81 号、2017、pp.129-154、査読有。
  6. 三浦周「戦前における学術研究助成の一考察 仏教学を中心として」『蓮華寺佛教研究所紀要』第 10 号、2017、pp.33-84、査読無。
  7. 江島尚俊「近代日本の大学制度と倫理学 - 東京大学における教育課程に着眼して - 」『田園調布学園大学紀要』第 10 号、2016、pp. 137-151、査読有。
  8. 安中尚史「京都本法寺と日蓮宗大学林関係資料について」『立正大学史紀要』第 1 号、2016、pp.41-46、査読無。
  9. 三浦周「仏教に社会性はあるか - 19 世紀東アジアにおける排耶論を通じて - 」『大正大学研究紀要特別号』第 100 号、2015、pp.39-47、査読有。
  10. 三浦周「仏教の社会的役割 - 僧侶のプロフェッショナルリティを問う - 」『日本佛教学會年報』第 80 号、2015、pp.1-32、査読有。
  11. 安中尚史「戦時下アメリカにおける日蓮宗の展開」『印度学仏教学研究』第 63 巻第 2 号、2015、pp. 656-663、査読無。
  12. 江島尚俊「国内諸大学における「戦時下の大学」研究に関する現状と課題」『大正大学総合佛教研究所年報』第 37 号、2015、pp. 463-481、査読有。
  13. 江島尚俊「なぜ大学で宗教が学べるのか」『宗教研究』第 88 巻第 3 号、2014、pp.51-75、査読有。

〔学会発表〕(計 17 件)

1. 江島尚俊「近代宗教行政の端緒を考える - 明治期文部省における仏教の新解釈 - 」日本総合仏教研究学会第 15 回大会、2016 年 12 月 11 日、於大正大学。
2. 江島尚俊「近代日本の倫理学」2016 年上廣倫理財団助成研究会発表会、2016 年 12 月 10 日、於公益財団法人上廣倫理財団 U F ホール。
3. 江島尚俊「総力戦体制下における教育・学問・宗教」佛教文化学会第 26 回学術大会、2016 年 11 月 26 日、於大正大学。
4. 三浦周「「社会」に對峙する仏教学 大正大学を事例として」佛教文化学会第 25 回学術大会、2016 年 11 月 26 日、於大正大学。
5. 江島尚俊「宗教学校の定義を考える - 哲学館の非宗教学校申請を手がかりに - 」日本宗教学會第 75 回学術大会、2016 年 9 月 11 日、於創価大学。
6. 安中尚史「近代における日蓮宗僧侶の海外留学」日本印度学仏教学會第 67 回学術大会、2016 年 9 月 3 日、於東京大学。
7. 安中尚史「シンポジウム - 太平洋をまたぐ日系仏教の諸相：移民布教と仏教文物の移動」第 24 回日本近代仏教史研究会研究大会、2016 年 6 月 4 日、於立正大学。

8. 江島尚俊「どこが宗教を所管するのか - 宗教学校をめぐる文部省と内務省 - 」日本宗教学會第 74 回学術大会、2015 年 9 月 6 日、於創価大学。
9. 江島尚俊「総力戦下の教育行政と宗教行政」佛教文化学会第 25 回学術大会、2015 年 12 月 5 日、於大正大学。
10. 三浦周「近代仏教学とアジア主義」佛教文化学会第 25 回学術大会、2015 年 12 月 5 日、於大正大学。
11. 安中尚史「近代における日蓮教団の子弟教育」日本佛教学會、2015 年 9 月 9 日、於東京大学。
12. 江島尚俊「近代高等教育からみた宗教」第 23 回日本近代仏教史研究会、2015 年 5 月 6 日、於大正大学。
13. 大江満「文部省訓令十二号問題と立教学院」第 23 回日本近代仏教史研究会、2015 年 5 月 6 日、於大正大学。
14. 江島尚俊「宗学研究室の情報発信」日本宗教学會第 73 回学術大会、2014 年 9 月 12 日、於同志社大学。
15. 安中尚史「戦時下アメリカにおける日蓮宗の展開」日本印度学仏教学會、2014 年 8 月 31 日、於武蔵野大学。
16. 江島尚俊「The Six Buddhist Universities in the Modern Japanese Higher Education System」2014 年 8 月 30 日、European Association for Japanese Studies (EAJS) 於スロベニア・リュブリャナ大学。
17. 江島尚俊「近代高等教育行政の中の宗門系大学」日本近代仏教史研究会第 22 回研究大会、2014 年 5 月 14 日、於駒澤大学。

〔図書〕(計 7 件)

1. 江島尚俊・三浦周・松野智章編『シリーズ大学と宗教II 戦時日本の大学と宗教』(法蔵館、2017) 全 484 頁。
2. 江島尚俊ほか共著『大乘仏教と浄土教』(ノンブル社、2015) 全 842 頁。
3. 大江満ほか共著『戦時下のキリスト教 - 宗教団体法をめぐって - 』(教文館、2015) 全 197 頁。
4. 三浦周・江島尚俊ほか共著『お坊さんも学ぶ仏教学基礎 2 中国・日本編』(大正大学出版会、2015) 全 332 頁。
5. 安中尚史ほか共著『日蓮教団の成立と展開』(春秋社、2015)
6. 安中尚史ほか共著『日蓮宗北米開教百年史』(日蓮宗北米開教庁、2014) 全 170 頁。
7. 江島尚俊ほか共著『藤本浄彦古稀記念論文集 法然仏教の諸相』(法蔵館、2014) 全 1318 頁。

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

星野 英紀 (HOSHINO, Eiki)

大正大学・文学部・名誉教授

研究者番号：00054669

(2)研究分担者

安中 尚史 (AN-NAKA, Naofumi)

立正大学・仏教学部・教授

研究者番号：40277744

奈須 恵子 (NASU, Keiko)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：80287557

江島 尚俊 (EJIMA, Naotoshi)

田園調布学園大学・人間福祉学部・助教

研究者番号：80569913

三浦 周 (MIURA, Shu)

大正大学・仏教学部・非常勤講師

研究者番号：60646222

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

大江 満 (OE, Mitsuru)

立教大学立教学院史資料センター・主席研究員

齋藤 崇徳 (SAITO, Takanori)

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構・助教

ケイト・ワイルドマン・ナカイ (Kate, Wildman, NAKAI)

上智大学名誉教授

寺山 賢照 (TERAYAMA, Kensho)

大正大学総合仏教研究所研究員